

北の文脈ニュース 第75号

Kitano bunmyaku news

第40回企画展 「福士幸次郎展」 開催!!

会期：2016.1.12～12.28（会期中無休）



福士幸次郎（大正9年）

福士幸次郎は明治22年（1889年）11月5日、弘前市本町5丁目通称「椽の木」に、父慶吉、母ハルの四男として生まれました。父慶吉は歌舞伎芝居の貸衣装屋で、元寺町の常設芝居小屋「柁木座」の座付役者でもありました。幸次郎12歳の時に亡くなり、8歳年上の兄民蔵が親代わりを務めました。中学2年の時、教師と衝突して無断で学校を退め、軍隊にいた兄の転属先である山形に、2円の金を持って仙台まで来て無銭となり、徒歩で厳寒の雪の奥羽山脈を越え、母と兄のいる家に着きました。後に幸次郎は、このことを「向こう見ずのテンポ（無鉄砲）、思いたったことをやり通すジョッパリ」だと言っています。兄の世話で国民英学会（夜間部）に入学し、1年半で卒業するのですが、幸次郎は語学の才能にたけ言葉に対して非常に敏感で、後の音数律の研究に到りました。

佐藤紅緑の書生となり、明治42年から詩作を始めた幸次郎は、大正3年、第一詩集『太陽の子』を兄民蔵の援助で洛陽堂から自費出版し、口語自由詩の開拓者として注目されました。後に萩原朔太郎は『太陽の子』なしに僕の『月に吠える』は無かった」と福士の作品から影響を受けたことを書き残しています。「哀憐」は大正元年11月作で『太陽の子』と同時代に作られましたが、情熱的な「私は太陽の子である」（大正2年作）とはまた違う魅力を持っています。

大正8年、一女性との別離を契機に作詩をやめ詩論研究に取り組み、同年8月、一戸謙三らの結成した青森県初の詩の結社パストラル詩社を指導しました。

大正9年、新潮社から刊行した第二詩集『展望』は、序詩「展望」から「恢復」までをまとめたもので、「詩人・福士幸次郎」の全活動を見渡せる代表作となっています。

大正14年4月、東奥義塾の国語教師となった幸次郎は、生徒による文芸誌「わらはど」を指導し、その生徒の中に、のちの直木賞作家、今官一がいました。また、地方の文化を大切にしようという「地方主義の行動宣言書」を発表して後進を指導。一戸謙三・高木恭造が方言詩を作るなど、この地方の若者たちに大きな影響を与えました。佐藤紅緑に勘当された長男サトウハチローは、小笠原諸島父島での共同生活がのちの詩人サトウハチローを生み出したとして、随筆集『落第坊主』に「ボクの運命をきめたのは福士先生だ。」と綴っています。

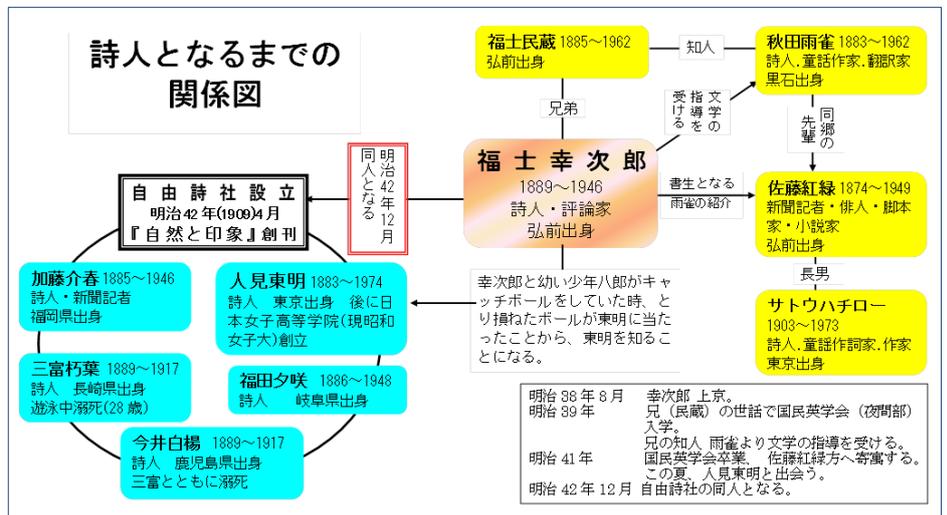


サトウハチロー（左）と幸次郎

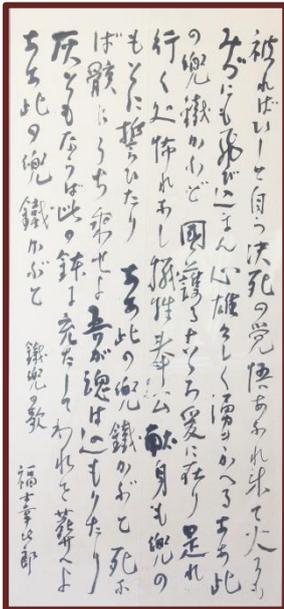
晩年、古代の研究に情熱を傾けた幸次郎は、全国を踏査した研究を『原日本考』（昭和17年）『原日本考続篇』（昭和18年）に纏め、「日本蔑視的古代探求の根本的弊害を打破して「日本考古学の新生面を樹立」した幸次郎独自の研究は、現在も注目されています。

今年は、福士幸次郎没後70年にあたります。

幸次郎が亡くなる56歳までの生涯を、ご遺族やご協力をいただいた方々からの資料をはじめ、これまで収蔵した資料と共に展示しています。



展示資料紹介



◆ 詩「鉄兜の歌」◆

近代文学館蔵
縦1610×横790

昭和7年2月、日本ファシズム連盟の中央執行委員となり、雑誌『ファシズム』第3号（昭和7年5月1日）に掲載された詩です。福士幸次郎直筆によるもので、墨の付足しや練達の筆致は、書家としてもすばらしいことが伺えます。

たずねてみませんか？

福士幸次郎詩碑

弘前公園三の丸（博物館隣）

文学館より
徒歩
約5分



胸にひそむ火の
叫びを雪降ら
さう
福士幸次郎

詩集『展望』から「鶺鴒」の一節が刻まれています。鶺鴒とは白鳥のことです

ミニ企画

石坂洋次郎代表作紹介

『青い山脈』

2016年1月12日～12月28日・2階石坂洋次郎記念展示室

1月より、石坂洋次郎が初めて挑んだ新聞小説で、戦後を代表する作品『青い山脈』について展示しています。

戦後、価値観が大きく変わった世の中で、どのような作品を書いていくか苦悩する中に生み出された『青い山脈』は、読む者に敗戦後の暗く先の見えない毎日を明るく照らし、新しい時代への希望を抱かせました。映画も大ヒットし、主題歌は今もなお歌い継がれています。本展示では、初版本や写真、年表などを交え紹介しております。石坂洋次郎没後30年にあたる本年、弘前が誇る作家・石坂洋次郎の魅力を、ぜひ御鑑賞ください！



お客様の声

(平成27年10月～12月来館者アンケートより)

弘前に長く住んでいますが、はじめて来館しました。これからどんどん周囲に広めていきたいです。ありがとうございました。(弘前市 女性)

◎落ちつける。◎弘前の文化は優れている。◎郷土の文学者を伝えようとする工夫が展示に表れていた。

◎子どもにもわかりやすい解説がほしかった。
◎陸羯南はもっと市民に知られるべき。中学校で郷土の偉人として授業等で取り上げるのがいいのでは。

たまたま弘前に来てこちらにも伺ったのですが、「陸羯南展」大変充実し、洋行の路程と絵巻書で示す等展示の工夫も面白く、充実させていただきました。(千葉県 男性)

太宰治のファンで3年前にこちらに来て以来、毎年通っています。太宰の特集のときもあるでしょうが、その時に当たらず残念でした。陸羯南がこちらの人とは全く知りませんでした。正岡子規の良き理解者であったことくらいしか知らず、この特集を興味深く拝見しました。石坂洋次郎氏くらい太宰治もコーナーを設けてほしいです。(佐賀県 女性)

来館の皆様よりたくさんのご意見をいただきありがとうございました。ご意見・提案をふまえてよりよい文学館をご覧いただけるよう努力してまいります。

平成27年度

「北の文脈文学講座」を終えて



北の文脈文学講座は展示資料と文学者について、より深く楽しみながら学んでもらうため、平成24年5月からスタートしました。

今年度は佐藤愛子・司馬遼太郎が描いた津軽、寺山修司—青春の俳句—、陸羯南の生涯1～3、正岡子規と佐藤紅緑、佐藤紅緑と父弥六を取り上げ、全7回の講座を開催しました。

外部講師には郷土作家研究家の齋藤三千政氏、文学者・音楽家の鎌田紳爾氏をお迎えし、貴重なお話を聞かせていただきました。

たくさんの方々にお越しいただいて、盛況に終わりました。ありがとうございました。



第39回企画展「陸羯南展」
盛況のうちに終了いたしました。
御来館くださった皆様ありがとうございました。



次回、スポット企画展
「太宰治の高校生活」
2016. 4. 1～6. 30開催



第40回企画展『陸羯南展』図録、絶賛頒布中!!
大正時代の口語自由詩の詩人・福士幸次郎の
生涯を伝える一冊。
全40ページ、頒布価格 500円